

被ばく低減対策好事例集

場 所		分 類		番号	28-12
原子炉建屋内	RB	R 3	1 時間		
タービン建屋内	TB		2 距離		
R ZONE	R		3 遮へい		
Y ZONE	Y		4 線源の除去		
G ZONE	G		5 遠隔、自動化		
その他 ()	Z		6 汚染拡大防止		
			7 その他		
内 容	遮へい小屋の設置				
作業部位	1~4号機 海側エリア				
概 略	管理員用の鉛遮へい小屋を設置し、被ばく低減を図った。				
評 価 (定性・定量)	効 果		低減量		
		被ばく線量(mSv)	66		
		人工数(人日)	--		
事例詳細	<p>対策前 管理員は常時現場で作業管理を行っており、比較的低線量率エリアでも長時間滞在して被ばくが多かった。</p> <p>対策内容 管理員用の鉛遮へい小屋を設置。管理員は現場の作業管理時以外はそこで待機し、被ばく低減を図った。</p> <p>1. 管理員の待機用鉛遮へい小屋を設置し、作業時間の50%を鉛遮へい小屋で待機 (鉛遮へい小屋の遮へい効果:約50%)</p> <p>2. 予想効果</p> <p>(1)作業人員:2人×100日=200人</p> <p>(2)作業環境線量率:低減量 20人・mSv</p> <p>対策なし:0.10mSv/h×4時間×200人=80人・mSv</p> <p>対策あり: (0.10mSv/h×2時間)+(0.05mSv/h×2時間)×200人=60人・mSv</p>				
 <p>待機用鉛遮へい小屋</p>					
<p><注意点> 遮へい小屋の大きさは、使用する作業員人数により、最適なものを検討・設置することが大切です。</p>					